




審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2844 号	氏名	角 明子
審査担当者	主 査 大島 孝一 (印)  副主査 鹿毛 政義 (印)  副主査 鳥村 拓司 (印) 		
主論文題目： Des- γ -carboxyprothrombin (DCP) and NX-DCP expressions and their relationship with clinicopathological features in hepatocellular carcinoma (肝細胞癌及び非癌部肝組織における MU-3 抗体及び NX 抗体を用いた PIVKA-II 発現の検討)			

審査結果の要旨 (意見)

PIVKA-II は、肝癌の腫瘍マーカーとして汎用されているが、今回、NX-PVKA-R が肝癌診断に有用との報告があり、NX 抗体の組織発現に関する検討した研究である。対象は 157 例、癌組織の発現強度と発現陽性領域の割合 (発現スコア) を陰性、低発現、高発現に分け、病理学的所見と比較検討したところ MU-3 抗体高発現群は、im 陽性例が有意に多く、vp 陽性例も多い傾向にあった。NX 抗体高発現群は、高分化癌、im・vp 陰性例が有意に多かった。血清 PIVKA-II 値と MU-3 抗体発現スコアに相関がみられたが、血清 NX-PVKA 値と NX 抗体発現スコアにはみられなかった。NX 抗体発現陰性例、血清 NX-PVKA 陽性例は有意に生存率が低かった。PIVKA-II と NX-PVKA は、それらの発現や臨床病理学的特徴は異なる性質を呈していた。審査にあたり、今後の展開、また研究内容に対する質問にも的確に回答が得られた。この論文は十分に学位に値するものと考えられた。

論文要旨

PIVKA-II は、MU-3 抗体を用い肝癌の腫瘍マーカーとして汎用されているが、ビタミン K 不足時には NX 抗体と反応する PIVKA-II が上昇する。これらの抗体を用いた NX-PVKA-R が肝癌診断に有用との報告があるが、NX 抗体の組織発現に関する検討はなく今回検討した。対象は 157 例、癌組織の発現強度と発現陽性領域の割合の積 (発現スコア) を算出した。発現スコアを陰性、低発現、高発現に分け、病理学的所見と比較検討した。89 例では血清値の検討も行った。癌組織で MU-3 抗体の発現は 53%、NX 抗体は 64%であった。MU-3 抗体高発現群は、im 陽性例が有意に多く、vp 陽性例も多い傾向にあった。NX 抗体高発現群は、高分化癌、im・vp 陰性例が有意に多かった。血清 PIVKA-II 値と MU-3 抗体発現スコアに相関がみられたが、血清 NX-PVKA 値と NX 抗体発現スコアにはみられなかった。非癌組織には MU-3 抗体発現がなく、NX 抗体は 82%で発現していた。NX-PVKA-R 陽性例は陰性例より有意に腫瘍サイズが大きく、中～低分化癌、vp 陽性例が多かった。NX 抗体発現陰性例、血清 NX-PVKA 陽性例は有意に生存率が低かった。PIVKA-II と NX-PVKA は肝癌組織から産生されるが、それらの発現や臨床病理学的特徴は異なる性質を呈していた。